

くらがの

発行所 倉賀野神社
〒370-1201
群馬県高崎市倉賀野町1263番地
電話 027-346-2158
FAX 027-346-2184
例祭（秋季大祭） 10月19日
春季大祭 4月19日
公式ホームページ www.chinju.info/

■日誌

◎平成二十八年十月十三日

神饌田の抜穂祭（ぬいぼさい）
倉賀野中の生徒会有志も参加して稲刈りの儀式を行った。



神饌田（しんせんてん）でおこなわれた稲刈り

◎十月十九日 秋季例大祭
神楽殿では神社附属太々神楽保存会により神楽十二座が奉納され、参拝者で賑わった。



太々神楽「八幡の舞」

また倉賀野小二年～四年生七名が豊栄舞を奉納。五、六年生四名が浦安舞を舞った。



小学二年生の「豊栄舞」

あけの雲わけ うらうらと
とよさか昇る朝日子（あさひこ）を
神のみかげと おろがめば
その日その日のおとしや

午後三時には、「中学生神輿」が発輿。倉賀野中生徒三年生を中心に約百名が参加、「わっしょい」の元気な掛け声が響き渡った。



神輿の御旅所では中学二年生の舞姫六名が浦安舞を奉納した。

倉賀野神社の由来

御祭神は大國魂大神。第十代崇神天皇の御代、皇子の豊城入彦命が東国を平定する命を受けて都から下り、この地で祭祀を行ったのが神社の起源という。『日本書紀』の崇神天皇紀に「豊城命を以て東國を治めしたまふ。是れ上野毛君・下毛野君等の始祖なり」とある。
社伝によれば、命は都から捧持してきた大和國魂神の御分霊を御魂代として、まつりごとをなされた。御魂代は亀形の自然石で、御神体の「クニタマサマ」とよばれ、今も御本殿に奉安される。



◎十一月、樹木の枝落し作業

ケヤキ、クスノキなどの樹木は、鎮守の杜のたからもの。しかしときに建物や周囲の道路に危険を及ぼすこともある。神社総代会で会議し、境内の大規模な枝落しを実施した。



高所作業車で枝落しが行われた。

◎平成二十九年二月十一日

冠稲荷初午大祭
境内社・冠稲荷さまのお祭りは毎年祝日「建国記念の日」に行われる恒例行事である。



神楽殿の「福投げ」に歓声が上がった

また境内では創作紙芝居「飯玉縁起」が上演された。



紙芝居「飯玉（いいだま）縁起」に聞き入る子供たち

◎三月五日 勸学祭

ランドセルお祝い式
四月に小学校に入学する子供等が真新しいランドセルを背負って神社に参拝した。安全で楽しい学校生活でありますよう祈願した。



一人ひとりが玉串をお供えした。

地域の神社

町には地域の総鎮守である倉賀野神社のほかにも、神社があります。ここに紹介しましょう。

◎八幡神社 田屋町に鎮座し井戸八幡の名で親しまれている。正保三年（一六四六）三月、烏川北崖、倉賀野古城跡に突如霊水が湧き出て、八幡大神が出現したという。そこで高崎城主・安藤右京進重長の命によりこの地に神社が建立された。井戸はいまも生きていて、その覆屋の中には大神輿が奉安されている。

倉賀野河岸近くに船頭の神様・杉神社が鎮座していたが、鉄道の時代となり、当時の神社合祀政策もあって明治四十年、この八幡神社に合祀された。祭日は八月二十三日。宵宮二十一日。

◎諏訪神社 下町に鎮座。永禄年間（一五六〇頃）に武田信玄の命により信州諏訪の神を勧請したと伝えられる。享保十七年（一七三二）に、諏訪神社神主が京都吉田家から受領した免許証、「神道裁許状」が現存する。嘉永六年（一八五三）六月には、神

前で二夜三日の雨乞い神事が行われたと記録が残る。

平成六年、台風で市の天然記念物の大ケヤキが倒れ社殿が全壊したが、氏子の人々の熱意により新たに建て替えられた。境内にはマムシ除けで知られる池鯉神社の石宮がある。

祭日は八月二十七日とされるが、二十六日宵宮の奉納子供相撲がさかんである。

◎冠稲荷神社 横町に鎮座。かつて三光寺稲荷とよばれた。江戸時代、中山道の倉賀野宿の中ほどにあり、商家の信仰が厚く、旅籠の飯盛り女も参拝したという。

明治四十二年に祭神が倉賀野神社に合祀され、それが今日の倉賀野神社境内の冠稲荷である。このとき社殿は前橋・川曲町に売却され、いまもそこに建っている。昭和十年に、地元の人々の願いにより旧地・横町に倉賀野神社から御分霊して、神社が再建された。四月八日の祭日には遠方からも崇敬者が参拝にみえる。

町の神社めぐりをしてはいかが。懐かしくも新しい発見があるに違いありません。（宮司 高木直明）

御社殿の正面参道から拝殿の向背(屋根が前方に張り出した部分)を見上げると、一木の彫物がある。

中央に貴人が座り、膝の上で琴を弾いている。その左横から龍が首をもたげている。また貴人の背後には天蓋をさしかける童子がみえる。彫刻は神社に伝わる物語「飯玉縁起」の一場面をあらわしたものだ。

「飯玉縁起」は、飯玉大明神(明治初め頃までの倉賀野神社の古称)の成り立ちを、神仏習合の物語として巻物一巻に書き記したものである。



「飯玉縁起」と拝殿彫刻

■あらずじ

平城京の第四十九代光仁天皇の御代、群馬郡の地頭群馬太夫満行には八人の子がいた。末子の八郎満胤は文武の道にすぐれ、帝から目代という高い役職まで賜るようになった。これを妬んだ兄たちは八郎を夜討ちにして鳥啄池の岩屋の中に押し込めてしまふ。八郎は心に誓うこと三年、池の主である大龍王に祈って、ついに大蛇と化し、七人の兄たちを殺すばかりか、

国中から毎年生贄をとるようになってきた。

やがて、小幡権守宗岡の家が贄番に当たるとなり、十六歳の娘の海津姫との別れを共々に嘆き悲しむのであった。

そこへ帝の命を受けて都から奥州へ下る途中の勅使、宮内判官宗光があらわれ、いきさつを聞いてたいへん驚く。綿津姫を伴い池の岩屋へ入っていくと、八郎大蛇は真つ赤な目を見開き、

尾を振りたて舌なめずりしている。すぐさま宗光が経を唱え始めると、その美しい音声に、大蛇は迷いから覚めて、龍の姿に化身し、随喜の涙を流すのであった。やがて空高く飛び上がると、群馬郡と緑林郡の境、烏川のあたりへ飛び移り「わが名は飯玉である」と託宣し、そのまま消え失せてしまった。

これを見た倉賀野の住人の豊原朝臣高木左衛門定国という者が勅使宗光に言上したところ、宗光は大いに喜び、この地に社を建立することに成り、飯玉大明神と名付け、国の豊饒と民の加護とを祈念申し上げた。

文中に「本地十一面観音垂迹飯玉大明神」とあり、末尾には「平城天皇御時大同二年丁亥九月十九日(西暦八〇七年)とある。

■彫刻の「琴」

琴を弾く貴人は女性のように見えるが、話の筋立てからすると勅使宗光であろう。じつは、宗光が琴を弾く記述は縁起の中に見当たらない。琴弾きのくだりはもともと人々の口伝えの中にあつて、それがこのように目に見える形に彫り込まれたのであろうか。あるいは、中国の道教説話に琴と龍を題材

にした「玉匣弹琴」という図もあることから、そうした類型にヒントを得たものかも知れない。

宗光の膝に置かれた小さな琴は、六弦の「和琴」とみられる。宮中祭祀の国風歌舞などで奏でられる、日本最古の楽器である。琴は太古、神器であり、呪具でもあった。大国主命の神話にも「天の詔琴」が鳴り響く場面があった。本神社では、彫刻の琴に因んで、昇殿祈禱式に和琴の管絃を奉奏することを慣らいつている。

■「飯玉縁起」成立の背景

神社の「差上申一札之事」と題した古記録によると、飯玉縁起は、元々のものが虫喰いなどで破損してしまつたため、江戸の寛文年間(西暦一六七〇年前後)の頃に清書し復元したのだという。したがってそれ以前に、すでに飯玉縁起は存在し、また口承されてきたであろう。

中世、南北朝時代の唱導説話集として『神道集』が知られるが、そこに上野国、信濃国などおもに東国の神社の縁起が収められている。その中の「那波八郎大明神の事」とこの飯玉縁起の内容がよく似通うことが、研究者により指摘される。いずれも仏が

わが国に神としてあらわれたとする本地垂迹の物語である。唱導者が各地でうたい語る縁起物語は、信仰として、また娯楽として広く民衆に受け入れられていたのだ。

■怒れる八郎の意味するもの

人びとが恐れた八郎大蛇は、大雨風や榛名山の大噴火など、避け難い自然の暴威を象徴するものではなかつたらうか。古来、日本人の中には自然を怒れる八郎がついには恵みの神に転じるところに、神道の自然観があらわれている。

同時に、神を唯一神ととらえず、外来の仏をも語りの中に包み込んでしまふおもしろさが見える。日本書紀の用明天皇紀には「天皇、仏法を信じたまひ、神道を尊びたまふ」とある。

ふたたび彫刻を見ると、十一面観音が神の姿となつてあらわれたはずの八郎龍は、どちらかといえば脇にあり、主役は琴を弾く宗光のようだ。不思議なことにその頭部は、あたかも十一面観音のごとく装飾されていて、いつしか宗光の方が「琴を弾く十一面観音」と呼ばれるのである。

■彫工 北村喜代松と石川兼次郎

現在の御本殿は元治二年(一八六四)に建て替え上棟となり、拝殿は明治に完成したものである。明治八年の「拝殿上棟入費帳」には彫物師として信州善光寺北村喜代松と高崎檜物町石川兼次郎の名が並び記されていて、二人が彫刻に携わつたことがわかる。

彫刻のモチーフになぜ飯玉縁起を選んだのか。それをどのようにデザインし、彫り上げていくのか。施主側の神社世話人や神主と、彫物師との間に、やりとりがあつたはずだが、いまは想像するばかりである。

付言すれば、倉賀野神社は御祭神に大國魂大神を奉斎する神社である。いっぽうで長い歴史に、ここに紹介した「飯玉縁起」のように、異なる伝承もあるが、ありのまま世に伝えるのも意味あることと思われる。



同 末尾部分

「飯玉縁起」の冒頭部分

◎例大祭「懸税」(かけかき) 奉納芳名

- 河野 學 様
- 河野 茂 様
- 五十嵐良一 様
- 須永和昭 様
- 町田羨布 様
- 町田守章 様
- 関口 豊 様
- 渡辺 貴 様
- 大山善弘 様
- 宮寺章夫 様
- 宮寺正明 様
- 関口 充 様



◎祭典御奉納者及び奉賛会特別会員 芳名 (紙面都合により企業様・店舗様のみ掲載)

- 株式会社キノコ輪大 様
- 宮野環境設備株式会社 様
- 関東ロックウール株式会社 様
- 高崎森永株式会社 様
- 株式会社原田 様
- 群馬銀行倉賀野支店 様
- JAたかさき倉賀野支店 様
- 高崎信用金庫倉賀野支店 様
- しのもめ信用金庫倉賀野支店 様
- 倉賀野郵便局 様
- 第一屋製パン株式会社 様
- 株式会社科学飼料研究所 様
- 堀米医院 様
- 大山小児科医院 様
- 松下米穀店 様
- 有限会社 関東印刷 様